



京都市消防活動総合センター

平常時、大規模災害時の双方に対応した消防活動拠点として、あらゆる災害から市民を守ります。



京都市消防局

概要

京都市消防活動総合センターは、「消防学校」、「訓練施設」、「活動支援施設」など、消防活動に必要な諸機能を統合・合理化して、平常時及び大規模災害時の双方に対応した消防活動拠点として整備されました。

平常時には、消防職員、消防団員をはじめ、自主防災組織の方々などの教育や訓練を行う一方、大規模災害時には「消防学校」が「作戦情報室」として、また「訓練施設」が「緊急消防援助隊集結場所」として機能するなど、全国的な消防応援部隊である緊急消防援助隊の効率的な部隊運用を行うことができます。

京都市消防活動総合センターの施設と機能

平常時		大規模災害時	
活動支援施設	<ul style="list-style-type: none"> ●本部救助隊（スーパーレスキュー ※5ページ参照）、特別装備隊（※5ページ参照）を配置し、24時間体制で運用 ●消防車両の点検整備 ●活動資器材の備蓄、燃料補給 	後方支援施設	<ul style="list-style-type: none"> ●緊急消防援助隊への活動資器材、燃料の補給 ●緊急消防援助隊の車両、活動資器材のメンテナンス ●本部救助隊、特別装備隊の運用
消防学校	<ul style="list-style-type: none"> ●新規採用職員の研修（全寮制） ●消防職員の教育研修 ●消防団員の教育研修 ●火災原因に関する鑑識等 	作戦情報室	<ul style="list-style-type: none"> ●「消防指令センター」と直結した緊急消防援助隊の指揮統制 ●消防機関、関係機関との情報連絡 ●緊急消防援助隊の受付・登録 ●緊急消防援助隊の待機、宿泊施設
訓練施設	<ul style="list-style-type: none"> ●消防職員訓練 京町家や中高層建築物における火災や救助事故を想定した訓練 ●共同住宅や飲食店を模した訓練室での予防査察研修 ●消防団員訓練 操法訓練、訓練礼式等 ●自衛消防隊、自主防災会等の訓練 	緊急消防援助隊集結場所	<ul style="list-style-type: none"> ●緊急消防援助隊の車両集結場所（消防車両最大 471 台収容可能） ●ヘリコプター緊急離着陸場 ●緊急消防援助隊の待機・宿泊施設 ●物資の応急集積



京都市消防活動総合センター 総合配置図

敷地面積 約 34,000 m²

総合訓練棟

階数/地上5階・地下1階 延床面積/3,644.10 m²

- 各種消火・救助訓練など高度な消防訓練を行う訓練施設です。
- 高層ビル火災訓練に対応した訓練デッキや、地下火災を想定した地下訓練室など、様々な災害状況に対応した各種訓練設備が設置されています。

【主な設備】

地下訓練室、実火災訓練室、査察訓練室、低所救出訓練場、燃焼実験室、訓練検討室、模擬防災センター、訓練用非常用エレベーター、洞道訓練場、山岳訓練場、震災訓練場

屋内・水上訓練棟

階数/地上3階 延床面積/1,884.76 m²

- 水難救助訓練、ロープ渡過などの救助訓練のほか、操法訓練や訓練礼式などを行う訓練施設です。
- 緊急消防援助隊受入時には、バックスペースや物資荷さばき場として使用します。

【主な設備】

室内訓練場、救助技術訓練設備、トレーニングルーム、屋外プール(25m)、潜水プール(水深10m)

京都市消防学校(本館・宿泊棟)

階数/地上4階 延床面積/6,925.12 m²

- 主に教育、研修施設として利用します。
- 緊急消防援助隊受入時は、作戦情報・作戦支援室等を活用して緊急消防援助隊の指揮統制を行います。

【主要室】

普通教室、大教室、分析実験室、作戦情報室、作戦支援室、救急実習室、訓練準備室、寮室

救助訓練棟

階数/地上2階 延床面積/342.00 m²

- ロープ渡過やはしご登はん等の救助訓練を行う施設です。

活動支援施設(管理棟・整備棟)

階数/地上3階 延床面積/3,911.24 m²

- 平常時には、本部救助隊と特別装備隊の活動拠点となり、また消防車両の点検整備等を行います。
- 緊急消防援助隊受入時には、車両や活動資器材のメンテナンス、燃料の補給等を行う後方支援拠点となります。

【主な設備】

- 管理棟
車両庫、備蓄倉庫、事務室、会議室、訓練指導室、作戦室
- 整備棟
車両点検整備室、塗装室、部品整備庫、危険物倉庫、空気・酸素充てん室、自家用給油取扱所、ホース修理室

街区訓練場

- 京町家や共同住宅の構造を模した訓練用建物を組み合わせて京都の町並みを再現し、より実践的な訓練を行います。
- 訓練用建物はすべて可動式となっており、街区のレイアウトを自由に変更することや、緊急消防援助隊受入時には集結スペースを確保することが可能となります。

屋外訓練場

- 消防職員、消防団員の操法訓練や訓練礼式のほか、事業所の自衛消防隊の放水訓練などを行います。

【主な設備】

雨水を循環利用する消火栓・訓練用貯水槽、放水壁、泡放射訓練場、水防訓練場

活動支援施設

●車両整備場(整備棟)

平常時には消防車両の点検整備を行い、大規模災害時には緊急消防援助隊の車両や活動資器材のメンテナンスを行います。



●車両庫(管理棟)

「本部救助隊(スーパーレスキュー)」と「特別装備隊」が出動に備えています。



●備蓄倉庫(管理棟)

消防活動に必要な資器材を備蓄するスペース。大容量のラックを備え、搬送には10メートルの高さまで届く大型フォークリフトを使用します。



●高圧ガス充てん室

空気ポンプ、酸素ポンプを充てんするための施設です。

●給油所



本部救助隊(スーパーレスキュー)

消防局本部に配置されている本部指揮隊(スーパーコマンド)と共に本部指揮救助隊(スーパーコマンドレスキューチーム)を構成しており、災害現場では一体となった活動を行います。



●テロ災害を想定した訓練



●大型救助工作車



●特殊災害対策車



●災害現場指揮支援車

特別装備隊

災害現場で活動する部隊の支援活動を行います。「電源照明車」・「多目的物資搬送車」・「空気充てん車」(火災現場で消防隊が使用する空気呼吸器用のポンプなどに、空気を充てんする車両)等を運用しています。



●空気充てん車



●多目的物資搬送車



●電源照明車



●実火災訓練室(総合訓練棟, 2F~4F)

実際に火を燃やして火災の進行に伴う煙の充満や熱を再現し、逃げ遅れた人の救助や消火活動の訓練を行います。



●地下訓練室(総合訓練棟, B1)

地火火災を想定した地下訓練室や高層ビル火災に対応した訓練デッキなど様々な災害状況に応じた訓練施設を備えています。

●はしご車を活用した高層ビル火災訓練



●洞道訓練場(総合訓練棟, B1)

共同溝における事故を想定した救助訓練を行います。



●訓練検討室(総合訓練棟, 1F)

訓練室に設置されたテレビカメラの映像や街区訓練場の模型を活用して、訓練の検討を行います。



●街区訓練場(可動式)

京町家の構造を再現した可動式の訓練用建物などにより京都の様々な町並みを自由にレイアウトすることができます。緊急消防援助隊受入時には、移動させ集結スペースを確保します。



●査察訓練室(総合訓練棟, 4F)

実際の査察を想定し、立入検査の研修を行います。



●模擬防災センター(総合訓練棟, 1F)

消防用設備の作動状況を確認し、火災発生場所を特定させ、効率的な消火活動が行えるように訓練します。



「京町家風建物」



訓練施設



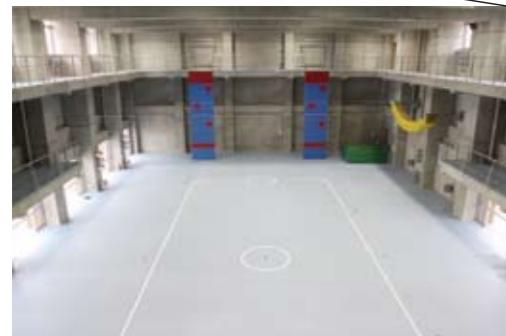
●山岳訓練場
起伏のある山肌を再現し、より実践的な救助訓練が行えるようになっています。



●潜水訓練場（水深 10m）
水深 10m において水難救助訓練を行います。気泡発生装置で視界状況を変化させることができます。



●救助訓練棟



●室内訓練場
室内訓練場では、小型動力ポンプ付軽積載車を乗り入れている操法訓練や訓練礼式のほか、ロープ渡過などの救助訓練等を実施することが可能です。緊急消防援助隊受入時には、バックスペースや物資荷さばき場として使用します。



●水上訓練場（25mプール）
ポンプにより水流を発生させることで、河川などの流水域での水難救助訓練を実践的に行うことができます。



消防学校（本館・宿泊棟）



●普通教室



●大教室
緊急消防援助隊受入時には、簡易宿泊施設として使用します。



●救急実習室
救命処置訓練を行うために必要な、観察用器材、蘇生器材などの救急資器材や訓練用的人形などが備えられています。さらには実物の救急車が設置され、一連の救命活動実習を行うことが可能です。



●作戦情報室・作戦支援室
平常時は、視聴覚室として使用します。緊急消防援助隊受入時には、消防局の「消防指令センター」に直結し、リアルタイムで収集した災害情報などを元に、効果的で効率的な部隊運用を行います。

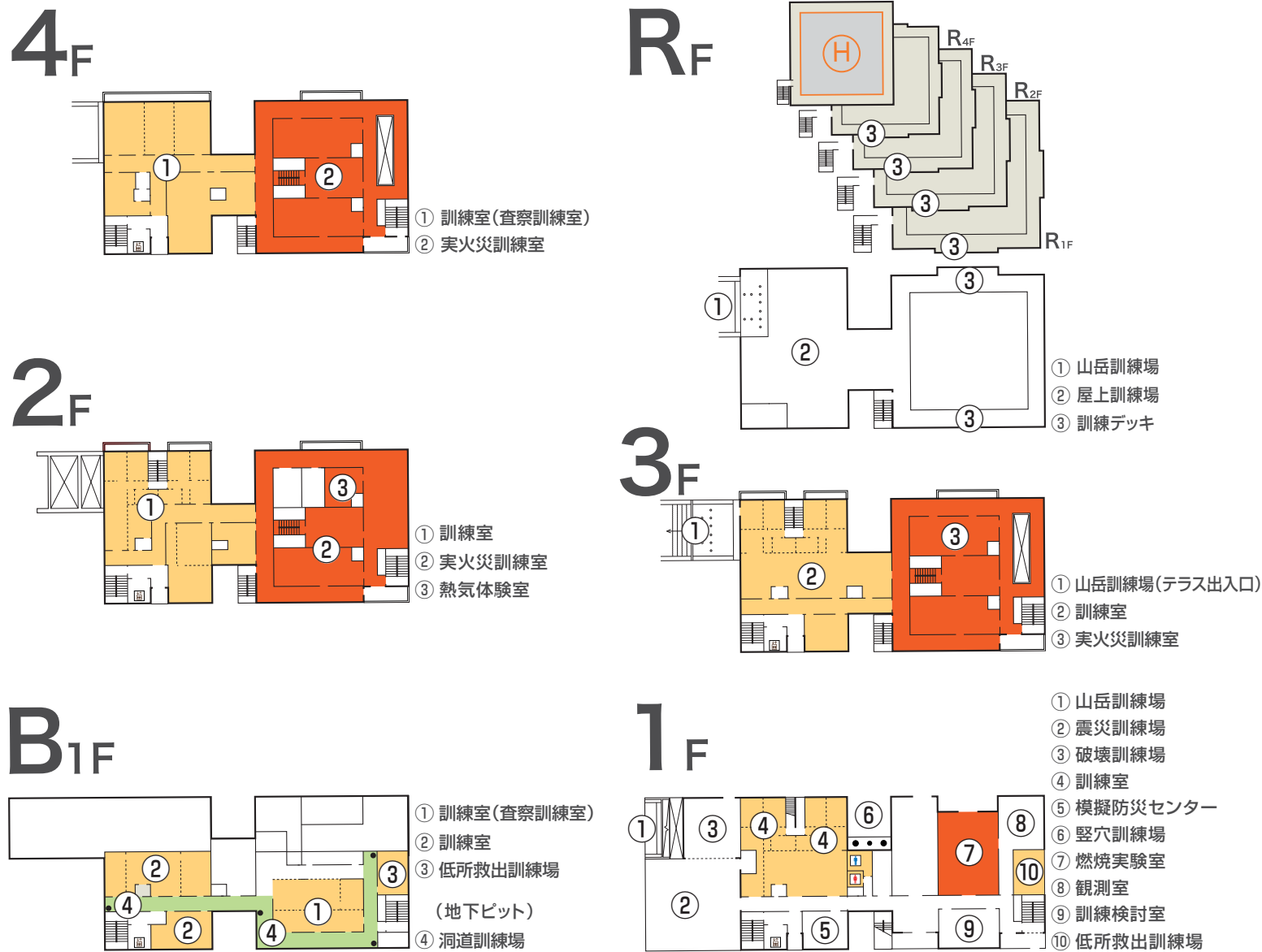


●防災広場

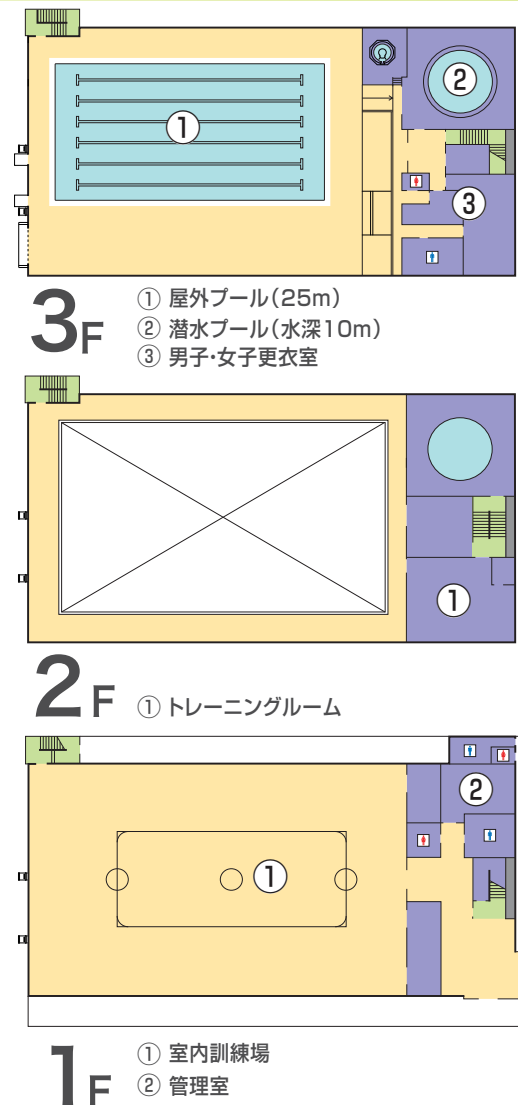


●分析実験室
ガスクロマトグラフィや熱分析装置などの機器を活用して、危険物等の性状判定試験や火災原因の鑑識などを行います。

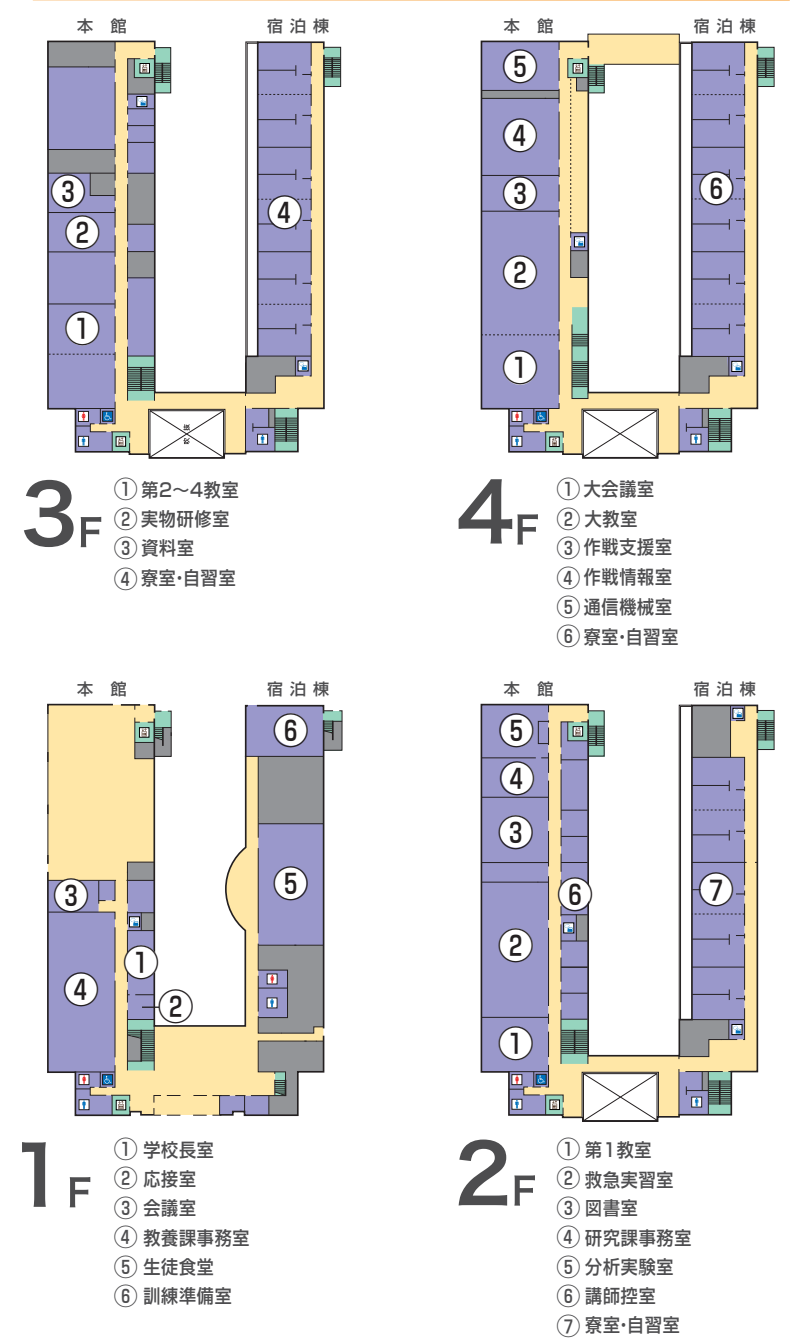
総合訓練棟



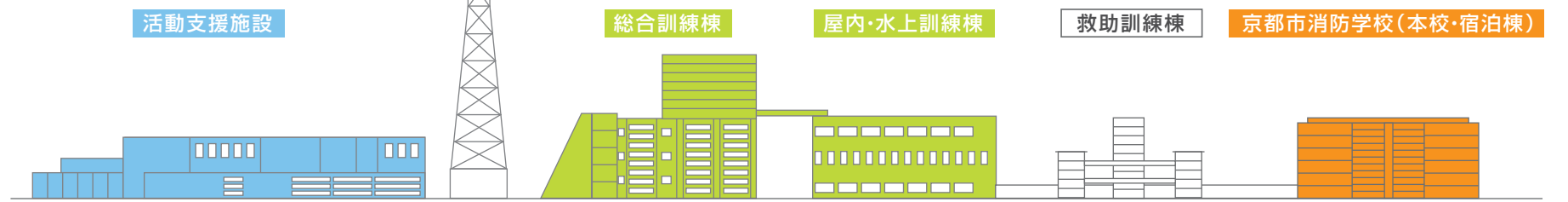
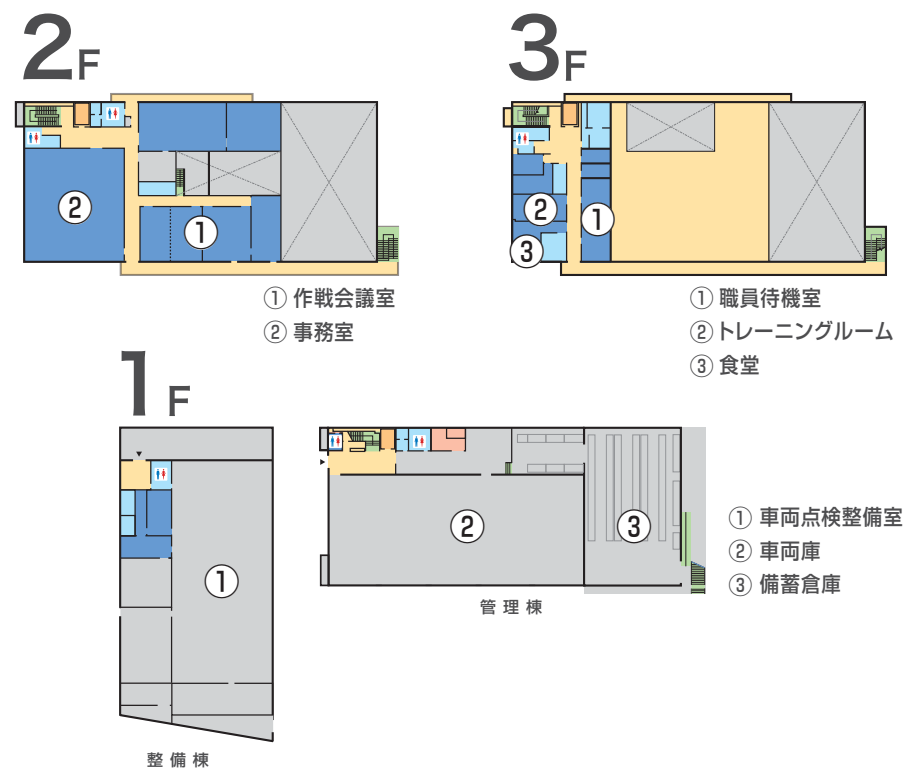
屋内・水上訓練棟



京都市消防学校(本館・宿泊棟)



活動支援施設



●太陽光発電パネル



●太陽熱給湯パネル



●湿式電気集じん機

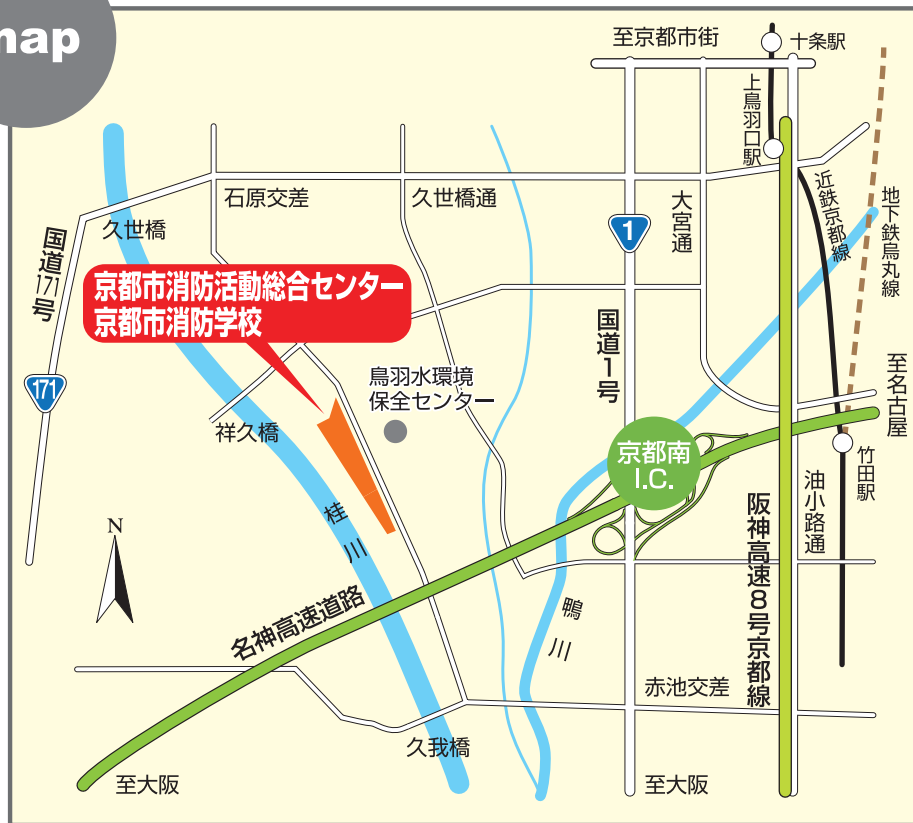


●消火訓練水ろ過装置

EC DO YOU KYOTO? LOGY

トイレや車両洗浄等に使用する1日約15㎡の雑用水は雨水・井戸水を使用するほか、放水訓練で使用する約200㎡の訓練用水は、雨水を循環再利用しています。
また、実火災訓練や燃烧実験で発生する煙は、湿式電気集じん機で処理しています。

map



京都市消防活動総合センター(管理棟)

〒601-8166 京都市南区上鳥羽塔ノ森下開ノ内 94-4
TEL.075-671-2119 FAX.075-671-2137

京都市消防学校

〒601-8166 京都市南区上鳥羽塔ノ森下開ノ内 21-3
TEL.075-682-0119 FAX.075-671-1195

